

## 1. はじめに

本資料は新型コロナウイルス流行下において、視覚障害者柔道のトップ選手が段階的練習計画を基に自粛中に低下した体力を通常期に戻すこと、および活動再開に向けたガイドラインである。

## 2. 基本的な考え方

本連盟では、全日本柔道連盟およびIJF（INTERNATIONAL JUDO FEDERATION）の活動再開のための推奨ガイドラインを基に実施する。

### <参考>

全日本柔道連盟：「新型コロナウイルス感染症への対応について（通知）」  
IJF：「新型コロナウイルス流行下における安全な状況での柔道の練習再開についての推奨ガイドライン」（日本語版）

強化指定選手における活動再開に向けては、IJFのガイドラインを適用し、視覚障害者が注意すべき項目を特記事項として追記する。また日常の練習時、合宿参加時、大会参加時を切り口としてガイドラインを追記し、本連盟の活動再開ガイドラインとする。尚、強化合宿などで強化指定選手と接触する強化スタッフにおいても同様に適用する。

## 3. IJFのガイドライン

「新型コロナウイルス流行下における安全な状況での柔道の練習再開についての推奨ガイドライン」 2020年3月V1.0 (※1)

添付を参照。

### ★留意事項

視覚障害者は一般の人に比べ、接触感染のリスクが高いため以下の点に留意する必要がある。

- ・ 集合から解散まで除菌ができるように除菌スプレーを携帯する
- ・ 練習場所のトイレにペーパータオルを常備する
- ・ 練習環境での導線を明確にする  
玄関⇄更衣室⇄練習会場⇄トイレ  
更衣室⇄トイレ

#### 4. 日々の健康状態確認

日々、検温、脈拍、健康状態を履歴として残し、練習参加時に過去2週間分の健康状態をいつでも提示可能とする。

##### ①履歴について

1日に2回健康状態（検温、脈拍、風邪の症状有無）の記録を残す。

確認時刻：10時、21時

フォーマットについて

全盲選手：テキスト形式でフリーフォーマットとする。

その他：別紙1に示すフォーマットとする。

##### ②検温

ワキ（腋窩）の体温を測定する。※測定方法は参考資料1を参照

##### ③脈拍

手首にある橈骨動脈で1分間の脈拍回数を測定する。

##### ④健康状態

風邪の症状の有無を示し、風邪の症状がある場合は以下の項目に該当するかを確認する。

風邪の症状 なし

あり

※風邪の症状がある場合は以下の項目もお答えください。

発熱 せき 息苦しさ 強いだるさ

#### 5. 日常練習参加のためのガイドライン

「4. 日々の健康状態確認」のOUTPUTとして、過去2週間分の健康状態を各個人で管理し、練習再開時に過去2週間分の健康状態をいつでも提示できるようにする。

※練習参加のガイドラインは（※1）に従う。

#### 6. 強化合宿参加のためのガイドライン

合宿参加については以下の流れに従い、参加可能か否かを判断する。

##### ①合宿参加依頼を強化選手に送付

出欠確認の締め切り日より過去2週間に発熱、風邪の症状が診られるものは合宿開始日まで経過観察とする。→ 出席可

## ②合宿集合日

集合日を起点として過去2週間に発熱、風邪の症状が診られるものは合宿参加はできないものとする。

発熱、風邪の症状がないものは以下のものを添付することで合宿参加を許可する。

- ・健康状態確認書（別紙1） ※「4. 日々の健康状態確認」参照
- ・誓約書（別紙2）

## ③合宿期間中

合宿期間中、検温、脈拍、健康状態を「4. 日々の健康状態確認」に従い確認する。発熱、風邪の症状が出たものは症状を合宿責任者が判断し帰宅させる。

症状が急変した場合は合宿地の最寄りの病院に受診させる。

※合宿時の練習実施ガイドラインは（※1）に従う。

## 7. 大会参加のためのガイドライン

現在、国内外を通しての大会参加ガイドラインについては新型コロナウイルスの感染状況にもよることから整理中である。